

ゆりかご 園だより

4期のねらい

2023 3 1

- ・表現活動を通して心を育てよう
- ・卒園 進級を期待しよう

一年を振り返り、子どもの成長を感じる機会が多くなりました。

4期は表現活動が中心となり、クラスで話し合いを重ね自分たちの劇をつくっています 先日、5歳児ぞう組の練習の様子をホールで見ました。

Eくんが自分のセリフを言えず黙ったままの状態が続きました 何とかセリフを発しようとしていますが思いとは裏腹にことばは出てきません。仲間たちの視線がEくんに向けられます

「早く言って」「言えないの?」「(役)変わたら?」などのことばは 切聞かれず(実際 4歳児のりす組で同じような場面があった時にはこれらのことばが聞かれました)言いたいのに言えないEくんの葛藤の時間に仲間たちはよく付き合っていました。「お部屋でやった時言えたんだから言えるよ」「がんばって」ということばが時々控えめに向けられます。Eくんの近くにいたYくんはEくんのセリフを耳元でささやいたり手を肩に添えるようなしぐさをしました。本人が一番つらいであろうEくんのどうにもできない気持ちに対する仲間たちの控えめな励まし。これが声高らかな「がんばれ!」の応援だと本人を追いつめかねないと感じたのでしょうか。

今年度のぞうさんは自分の気持ちをことばで伝えることがちょっと難しいかと思っています。「あのさー、うんとさー、えーとさー」が多く 結局何を伝えたいのかわからなかったり「忘れちゃった」となることもしばしばありました。

しかし表情やしぐさ、少ない情報から仲間の気持ちをおもんばかる力はあるのです。相手に伝えるかも大切ですが、相手の気持ちを感じる心も大切だと思いました。今仲間たちは自分に何を求めているのか周りと自分の関係に気づけるよう直接的に伝える4歳児と 相手を気づかう5歳児の支え方は違うのだなと思いました。そして そんなぞう組の子どもたちに成長を感じました。心から卒園 おめでとう!